



ISO 9001
ISO 14001
認証工場

取扱説明書

フリーフロートスチームトラップ

J3X・JF3X／J5X・JF5X

(ニードルバルブ付)

 **株式会社 ティエルバイ**

081-65312-05

はじめに

このたびは、TLV フリーフロートスチームトラップ（X－エレメント内蔵）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品は工場において十分な検査を行い出荷しております。まず本製品がお手元へ届きましたら仕様の確認と外観チェックを行い、異常のないことをご確認ください。

ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。

本取扱説明書には、お客様個別の特殊仕様に関する説明書が添付されていないことがあります。この場合の詳細については、当社にお問い合わせください。

本製品は、エアベント部に高性能X－エレメントを採用した画期的な製品です。装置用途に適しています。

X－エレメントは温度変化に敏感かつ正確に反応します。その結果、運転直後に発生する多量のドレンとエアをすばやく排出し、立ち上がり時間を大幅に短縮します。

また、運転中の高温エアおよび多量のドレン流入にも敏感に反応しエア障害をおこすことはありません。

本製品は上記X－エレメントのすぐれた特徴と実績のあるフリーフロート機構とが相まって、加熱効率を高め、メンテナンスおよび操作（バイパスブロー）の省力化に役立ちます。

この取扱説明書は表紙記載の型式に使用します。また、製品の取り付け時はもとより、その後の保守、分解・組み立て、トラブルシューティングにも必要となりますので大切に保管してください。

目次

安全上のご注意	1
配管工事の確認	2
作動説明	3
仕様	4
構造	5
製品の取り付け	6
保守	7
ニードルバルブの操作方法	8
分解・組み立て	9
トラブルシューティング	12
製品保証	13
アフターサービス網	14

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や物的損害を未然に防止するためのものです。
また、注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「危険」「警告」「注意」の3つに区分しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 本製品を正しく安全に使用していただくため、本製品の取り付け、使用、保守、修理などにあたっては、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項を必ず守ってください。なお、これらの注意に従わなかったことにより生じた損害、事故については、当社は責任と保証を負いません。

図記号

	危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです
 危険	: 人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容
 警告	: 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容
 注意	: 人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容

 警告	フロートを直接火にかけて加熱しないでください。 内圧が上昇して、フロートが破裂し重大な人身および物損事故の恐れがあります。
 注意	製品を正しく設置し、最高許容圧力・温度など、製品の仕様範囲を外れる使用方法は絶対にしないでください。 製品の破損、異常作動などにより重大な事故を起こす恐れがあります。 最高作動圧力差を超えて使用すると排出不能（フンヅマリ）となりますので、絶対に避けてください。 製品出口側の開口部は、直接人が触れられないようにしてください。 流体を排出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。 ロックレリーズバルブ操作中は、素手で作業したり顔などを近づけないでください。 少量の蒸気、ドレンが吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。 製品の分解、取り外しは、製品内部の圧力が大気圧になり、また製品表面温度が室温になってから行ってください。 製品に圧力、温度が加わっている場合は、流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする場合があります。 製品の修理には、正規の部品を必ず使用してください、また製品の改造は絶対にしないでください。 製品の破損、流体の吹き出し、異常作動によりケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。 接続ネジ部を締め過ぎないようにしてください。 締め過ぎますと接続部が割れて流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。 凍結しない仕様でお使いください。 凍結すると製品が破損して流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。 ウォーターハンマーなどの衝撃が加わらないようにしてください。 大きな衝撃が加わると製品が破損して流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

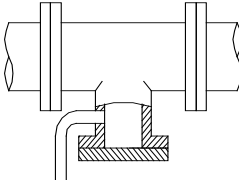
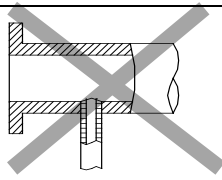
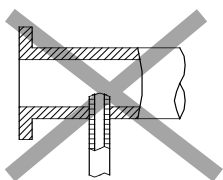
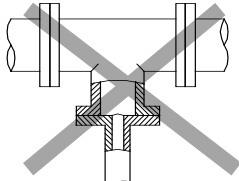
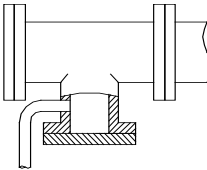
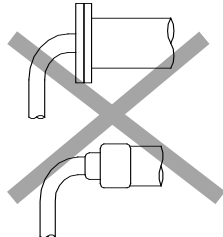
配管工事の確認



ウォーターハンマーなどの衝撃が加わらないようにしてください。
大きな衝撃が加わると製品が破損して流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

トラップを取り付けるための配管が適切に工事されていることを確認します。

1. 適切な管口径ですか？
2. トラップ取り付け部は水平ですか？
3. 保守スペースが確保されていますか？
4. 入口側、出口側に保守用弁が設けられていますか？
出口側に背圧がある場合は逆止弁（TLV-CK）が設けられていますか？
5. 入口管はなるべく短く、曲がりが少なく、液体が自然流下でトラップに流れやすくなっていますか？
6. 次に示す図の正しい方法で工事されていますか？

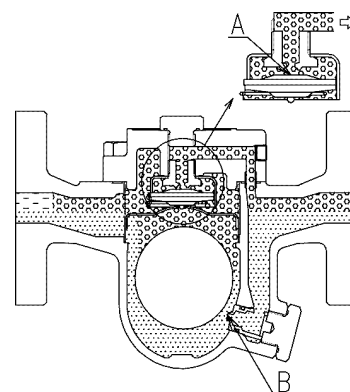
要件	正しい方法	誤った方法
適切な径の排水溜りを設けます		 径が細すぎます
ドレンの流入をさまたげない工事をします		 径が細すぎ、流入口が管内に突き出しています
ゴミやスケールのバルブへの流入を避けるにはT型管の底から25～50mm上に流入管を接続します		 ゴミも一緒に流入します
管末に設備する場合もドレン流入をさまたげないようにします		 ドレンが管内に滞留します

作動説明

エアおよびドレンの排出の原理を説明します。

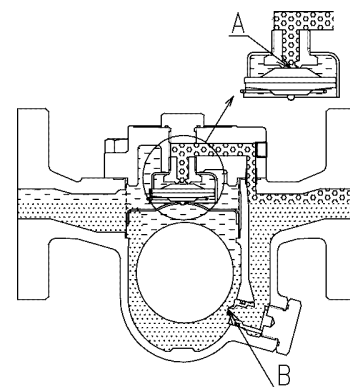
1. 初期エア・低温ドレン排出

装置へ蒸気が供給される前の低温時には、X-エレメントは収縮した状態で弁口（A）を大きく開いています。蒸気の供給が開始されると、この弁口（A）からエアおよびドレン、弁口（B）からドレンがすばやく排出されます。



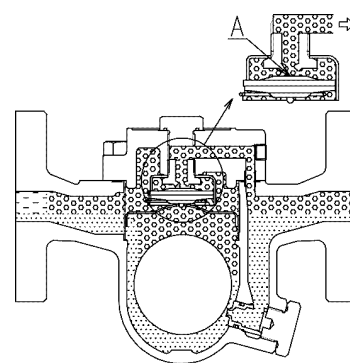
2. ドレン排出

初期のエアおよび低温ドレンの排出が終わり、蒸気が流入すると、X-エレメントは膨張して弁口（A）を閉じ、流入ドレン量に応じてフロートは浮上して弁口（B）からドレンを連続排出します。



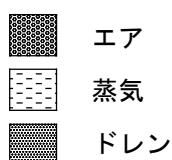
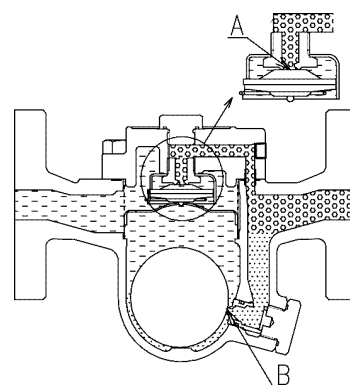
3. 高温エア排出

運転中に高温エアが流入すると、トラップ内の温度低下を X-エレメントが敏感に検知して、弁口（A）を開きエアをすばやく排出します。排出が終わると温度が上昇し弁口（A）を閉じます。



4. 閉弁状態

ドレンの流入がなくなれば、フロートは下降して弁口（B）を閉じます。この場合、弁口（B）は常に水面下にあるため蒸気漏れを防止します。



仕様



注意

製品を正しく設置し、最高許容圧力・温度など、製品の仕様範囲を外れる使用方法は絶対にしないでください。

製品の破損、異常作動などにより重大な事故を起こす恐れがあります。



注意

最高作動圧力差を超えて使用すると排出不能（フンヅマリ）となりますので、絶対に避けてください。



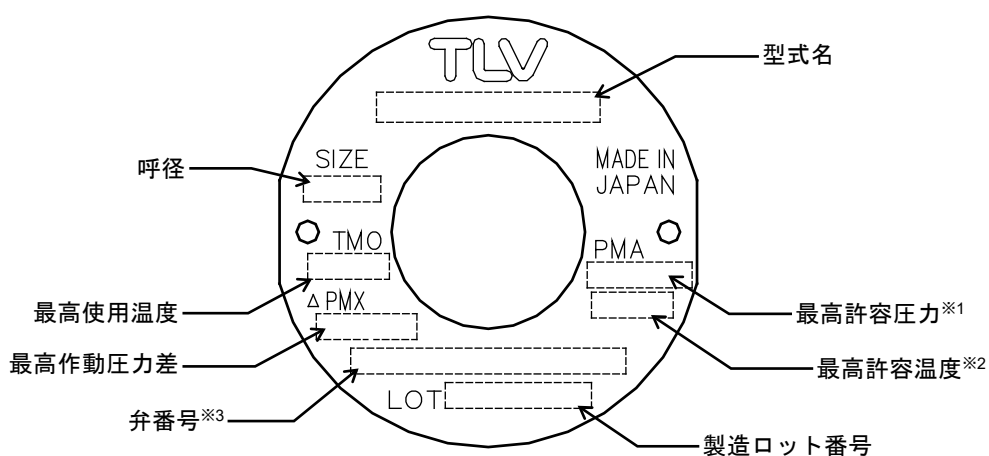
注意

凍結しない仕様でお使いください。

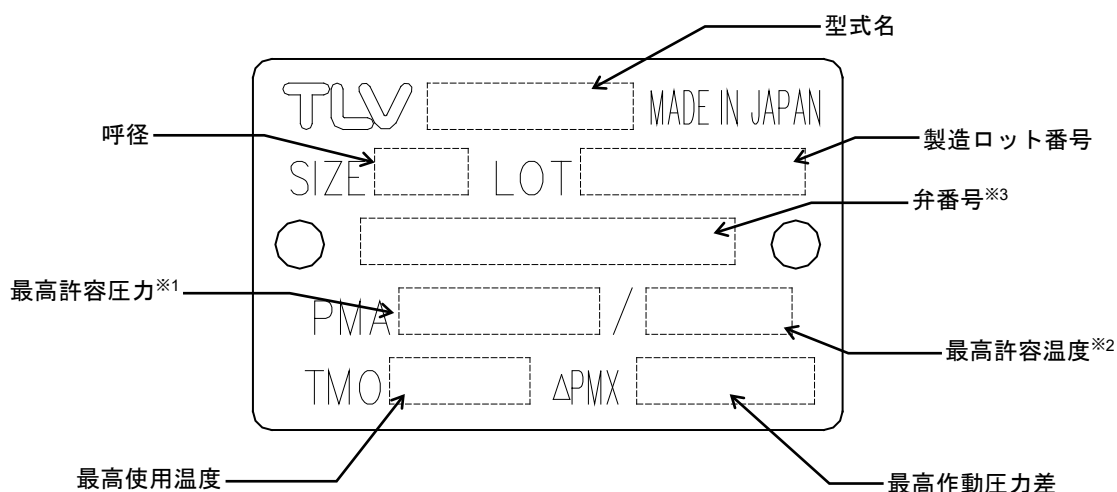
凍結すると製品が破損して流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

仕様の詳細についてはネームプレートにより確認してください。

J3X・JF3X



J5X・JF5X/J7X/J7.2X/J7.5X/J8X

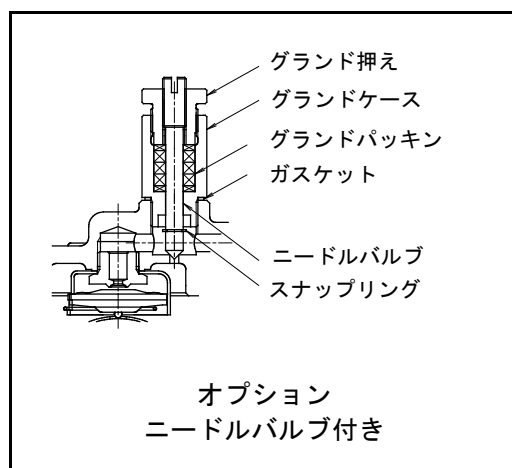
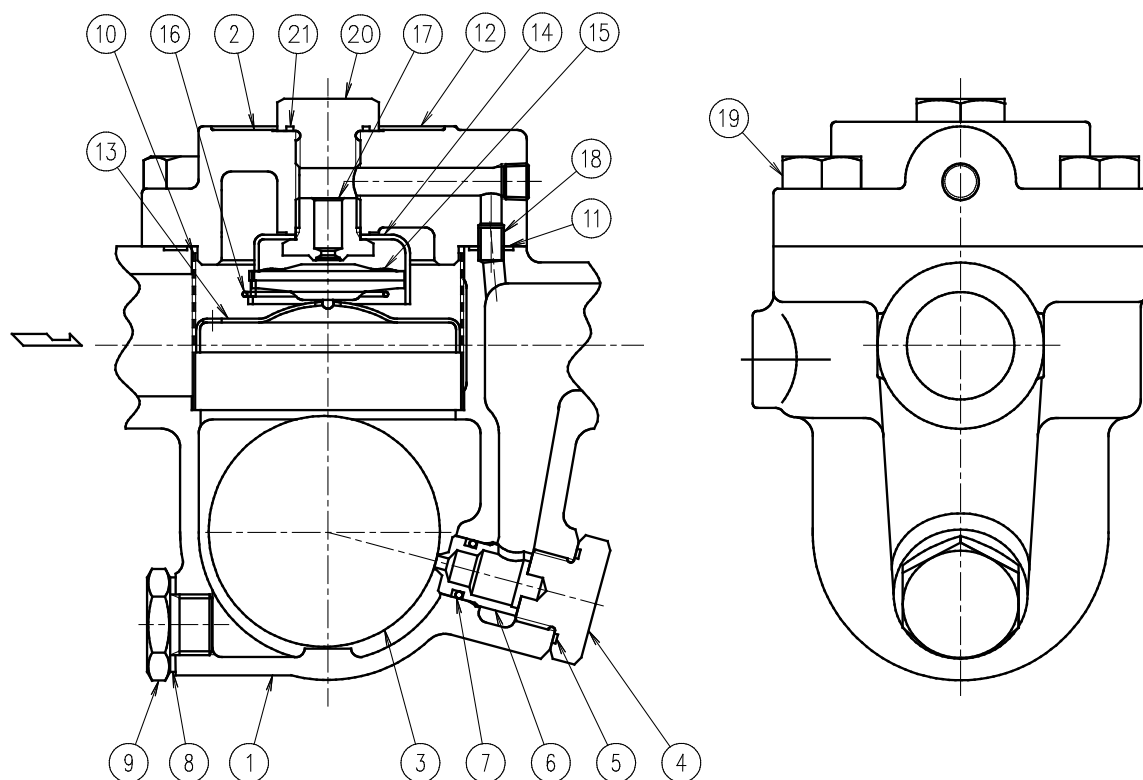


※1：最高許容圧力 PMA：耐圧部(本体)が許容される最高圧力で、最高使用圧力ではありません。

※2：最高許容温度：耐圧部(本体)が許容される最高温度で、最高使用温度ではありません。

※3：弁番号の表示については、オプションです。指示されたときのみ表示されます。

構造



No.	品 名	点検 キット	補修 キット	フロート
1.	ボディー			
2.	カバー			
3.	フロート			○
4.	保持プラグ			
5.	ガスケット	○	○	
6.	オリフィス		○	
7.	Oリング	○	○	
8.	ガスケット	○	○	
9.	ドレンプラグ			
10.	スクリーン		○	
11.	ガスケット	○	○	
12.	ネームプレート			
13.	フロートカバー		○	
14.	ガイド		○	
15.	X-エレメント		○	
16.	スナップリング		○	
17.	バルブシート		○	
18.	接続管			
19.	六角ボルト			
20.	プラグ			
21.	ガスケット	○	○	

※No.8, 9 は、J3X/J5X についてはオプションです。

製品の取り付け



注意

製品を正しく設置し、最高許容圧力・温度など、製品の仕様範囲を外れる使用方法は絶対にしないでください。

製品の破損、異常作動などにより重大な事故を起こす恐れがあります。



注意

製品出口側の開口部は、直接人が触れられないようにしてください。

流体を排出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。



注意

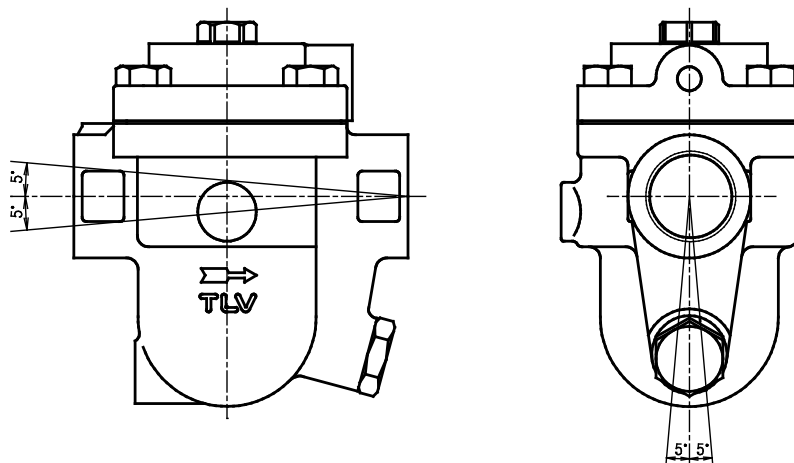
接続ネジ部を締め過ぎないようにしてください。

締め過ぎますと接続部が割れて流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

1. 入口弁を開け、十分にブローして配管工事クズなどを排除します。ブロー後入口弁を閉めます。
2. 製品の入口・出口に付いている防塵用キャップまたはラベルを外してください。
3. ドレンの流れる方向とトラップ本体上の矢印を一致させて取り付けます。
4. 取り付け許容傾斜角は水平および前後方向に対して 5° です。
5. ドレン出口弁、出口管を取り付けます。
6. 出入口弁を開き、トラップが正常に作動することを確認します。

異常の場合はトラブルシューティングで原因を見つけます。

取り付けの際の許容傾斜角度



トラップ本体の鋳出し文字（TLV）が水平に読めるように取り付けます

保守



注意

製品出口側の開口部は、直接人が触れられないようにしてください。
流体を排出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。



注意

製品の修理には、正規の部品を必ず使用してください、また製品の改造は絶対しないでください。
製品の破損、流体の吹き出し、異常作動によりケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

作動点検

作動点検は、下記の作動状態を日常的に目視確認、定期的（年2回以上）に聴診器、温度計などで確認を行ってください。

トラップが故障すると、配管、装置などの異常により生産物不良が発生したり蒸気漏洩による損失がおこります。

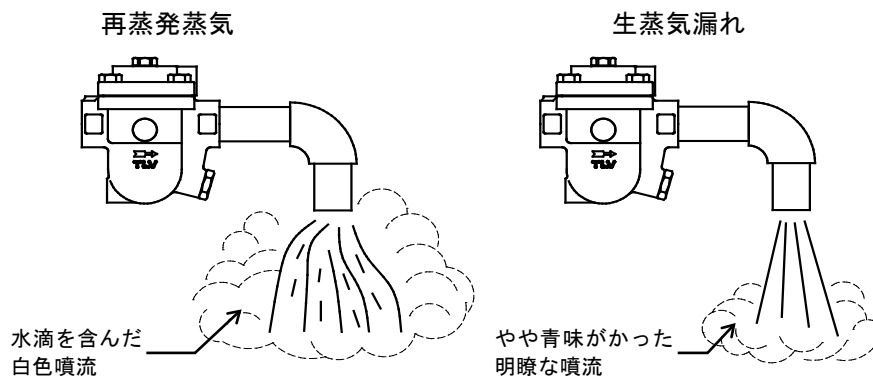
正常 : ドレンが連続排出され再蒸発蒸気を伴って“ザー”という流動音がしている。
ドレン量のごくわずかな場合は、ほとんど流動音はしない。

排出不能 (フツマリ) : いつまでたってもドレンが排出されない状態です。
音はせず静かでトラップ表面温度が次第に低下します。

吹き放し : 排出口より生蒸気が流出し続け“キーン”という金属性の流動音がいつまでも止まらない状態です。

蒸気漏れ : 排出口よりドレンとともに生蒸気が出て“シャー”という高い流動音がする。

(再蒸発蒸気を蒸気漏れと判断されるケースがありますので、目視判定と合わせてスチームトラップ診断器【TLV: TrapMan】を併用してください。)



部品点検

部品を取り外したとき、または定期点検は次の表を使用して点検し、発見された不良部品は交換します。

手	順
ガスケットに変形、傷がないか	
スクリーンに目詰り、腐蝕破損がないか	
X-エレメントに傷がないか	
バルブシートに傷がないか	
フロートに傷、打痕等がないか	
(本体内を清掃した後)	
Oリングに変形、傷がないか	
オリフィス弁口に汚れ、油膜の粘着、磨耗、傷がないか	

ニードルバルブの操作方法

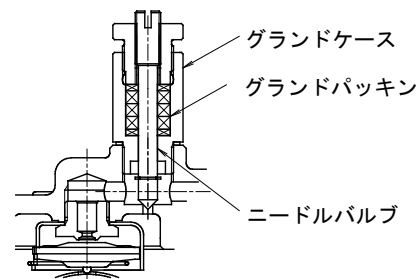


製品の修理には、正規の部品を必ず使用してください、また製品の改造は絶対しないでください。
製品の破損、流体の吹き出し、異常作動によりケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

1. 製品出荷時、ニードルバルブは最下限に位置し閉め込んであります。(下図参照)

2. ニードルバルブを操作する前に、トラップ出口側の作動状態を確認してください。

3. ニードルバルブの操作は次のようにします。



必要工具：マイナスドライバ、モンキレンチまたはスパナレンチ

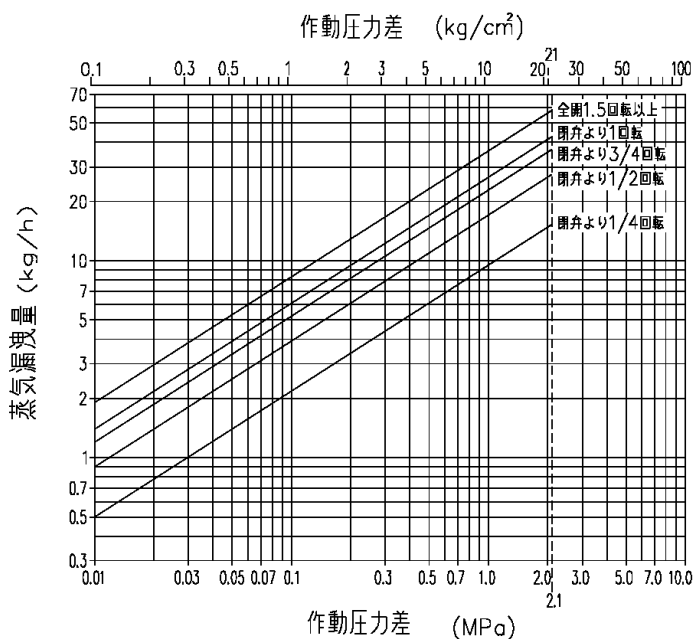
【開弁時】

- ・ ニードルバルブ上端の溝にマイナスドライバを掛け、反時計回りにゆっくり回してください。
※ニードルバルブがストップした位置(=スナップリングがグランドケースにあたった位置)以上に回さないでください。
※閉弁時には、グランド押えが供回りしないように、工具(モンキレンチやスパナレンチなど)を使用してグランド押え六角面に掛けながら、ニードルバルブを操作してください。
- ・ 蒸気量の調整は、下記のグラフを参照して調整してください。

【閉弁時】

- ・ ニードルバルブ上端の溝にマイナスドライバを掛け、時計回りに回して締めてください。
4. 万一、グランド押えから蒸気漏れが起こった場合は、グランド押えを増し締めすることで漏れを止めることができます。(ニードルバルブが回転できる程度まで締めてください。)

蒸気漏洩量グラフ



分解・組み立て



警告

フロートを直接火にかけて加熱しないでください。

内圧が上昇して、フロートが破裂し重大な人身および物損事故の恐れがあります。



注意

製品の分解、取り外しは、製品内部の圧力が大気圧になり、また製品表面温度が室温になってから行ってください。

製品に圧力、温度が加わっている場合は、流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする場合があります。

次の方法で部品を取り外します。組み立ては逆手順で行います。

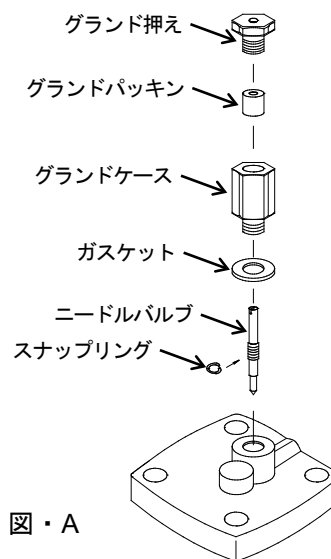
締め付けトルク一覧表

型 式	ボルト		バルブシート		プラグ		保持プラグ		ドレンプラグ	
	トルク N・m	対辺寸法 mm	トルク N・m	対辺寸法 mm	トルク N・m	対辺寸法 mm	トルク N・m	対辺寸法 mm	トルク N・m	対辺寸法 mm
J3X※・JF3X	50	17	35	19	30	19	50	24	35	21
J5X※・JF5X※	80	22	35	19	30	19	80	32	35	21
型 式	グラント押え※※ (オプション)		グラントケース※※ (オプション)							
	トルク N・m	対辺寸法 mm	トルク N・m	対辺寸法 mm						
J3X・JF3X	30	22	30	19						
J5X・JF5X	30	22	30	19						

- (注) ※ J3X/J5X・JF5X (20,25mm) は、ドレンプラグ無しが標準ですのでご注意ください。
 ※※ グラント押え・グラントケースは、ニードルバルブの部品を示します。
 ※※※ 印のついたトルク値は、ネジ部分に3~3.5回シールトテープを巻いた場合のものです。

ニードルバルブ関連 (※オプション)

部品名	分解	組み立て
グラントケース	ソケットレンチで外します	締め付けトルク一覧表を参照し、正しいトルク値で締める
ガスケット	—	必要な場合のみ交換します
グラント押え	ソケットレンチで外します	締め付けトルク一覧表を参照し、正しいトルク値で締める
グラントパッキン	グラントケース内面に傷をつけないこと	新品と交換します
スナップリング	つまみながらはずします	新品と交換します(図・A)
ニードルバルブ	回転させながらはずします	—



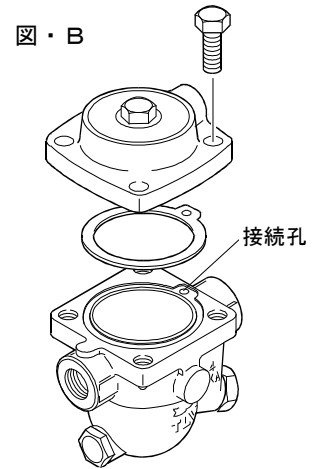
図・A

ドレンプラグ関連 (※オプション)

部品名	分解	組み立て
ドレンプラグ	ソケットレンチで外します	締め付けトルク一覧表を参照し、正しいトルク値で締める
ガスケット	—	新品と交換します

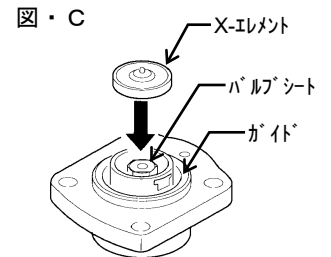
カバー部の取り外しと組み立て

部品名	分解	組み立て
プラグ	ソケットレンチで外します	締め付けトルク一覧表を参照し、正しいトルク値で締める
ガスケット	—	変形や損傷がある場合、新品と交換します
六角ボルト	ソケットレンチで外します	締め付けトルク一覧表を参照し、正しいトルク値で締める
カバー	カバーを上方へ引き上げる	シート面に付着しているガスケットを取り除き、接続管の向きを合わせて、組み立てる (図・B)
接続管	接続管を外す	—
ガスケット	ガスケットを外す	変形や損傷がある場合新品と交換します



カバー内部の部品の取り外しと組み立て

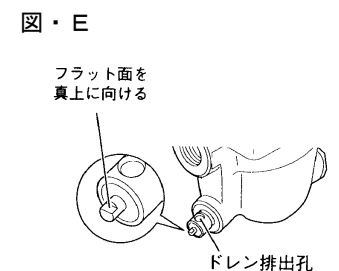
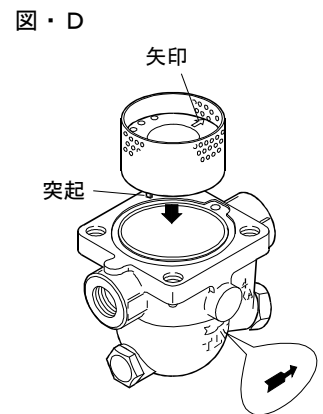
部品名	分解	組み立て
スナップリング (X-エレメント)	内側につまみながらガイドから外します	ガイドの固定穴にしっかりとハマり込ませる
X-エレメント	ガイドから取り出します	組み立て時、上下の向きに注意 (図・C)
バルブシート	ソケットレンチで外します	締め付けトルク一覧表を参照し、正しいトルク値で締める
ガイド	変形させないでください	X-エレメントがスムーズに入る



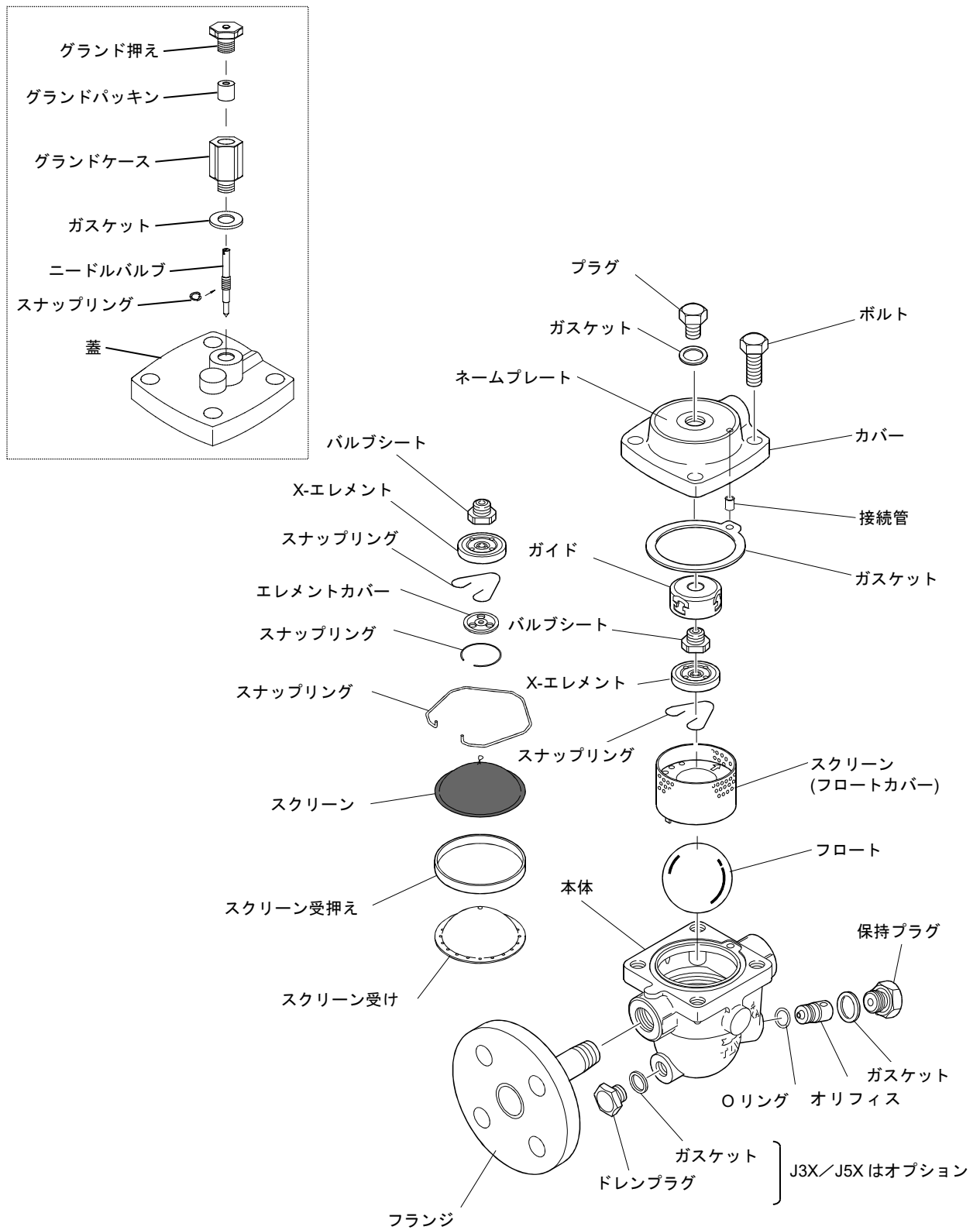
本体内の部品の取り外しと組み立て

スクリーン関連部品は型式によって異なります。

部品名	分解	組み立て
スクリーン (フロートカバー)	回転させながら真上に引き上げる	フロートカバーの矢印を本体の矢印に合せて入れ、カバー下部の突起部を本体のガイドにはめ上端が本体からはみ出さない位置まで入れる (図・D)
フロート	精密加工されています 表面を傷つけないこと	精密加工されています 表面を傷つけないこと
保持プラグ	ソケットレンチで外します	締め付けトルク一覧表を参照し、正しいトルク値で締める
ガスケット (保持プラグ)	—	変形や損傷がある場合は、新品と交換します
オリフィス	本体内部から、保持プラグ側に押し出します	組み立て時は、オリフィスの向きに注意して (図・E)、外側より挿入し、奥のストッパーに当たるまで押し込みます ドレン排出口が横向きになった場合、長期間使用により本体に穴があく場合があります
Oリング	ゴム製のため傷つけないこと	組み立て時は、耐熱グリスを塗布します オリフィスを交換する時は、Oリングも新品を使用します



分解図



トラブルシューティング



警告

フロートを直接火にかけて加熱しないでください。

内圧が上昇して、フロートが破裂し重大な人身および物損事故の恐れがあります。



注意

製品の分解、取り外しは、製品内部の圧力が大気圧になり、また製品表面温度が室温になってから行ってください。

製品に圧力、温度が加わっている場合は、流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする場合があります。

トラップが正常に作動しない場合は次の表で処置します。

現 象	診 断	処 置
ドレンが出ない、 または出が悪い (排出不能)	フロートの破損・浸水をチェック	フロート交換
	オリフィス弁口部、スクリーン、配管のゴミづまりを チェック	各部のクリーニング
	X-エレメントの傷・破損をチェック	X-エレメント交換
	トラップ作動圧をオーバーしていないかチェック、 また入口と出口の圧力不足がないかチェック	仕様と実使用条件を比較検討
	スチームロッキングが発生していないかチェック	ニードルバルブを操作するか、 バイパスブローを行うか、入口バ ルブを閉じてトラップを冷却する
排出口より蒸気が 吹き出る、または 漏れる (吹き放し) (蒸気漏れ)	オリフィス弁口のゴミ噛み、フロート下のゴミ堆積を チェック	各部のクリーニング
	オリフィスに傷がないかチェック	オリフィス交換
	フロートにスケールが付着していないか、または フロートが変形していないかチェック	フロートのクリーニングまたは 交換
	取り付け方が正しいかチェック	取り付け方修正
	トラップが振動していないかチェック	トラップ入口管を延長し、 固定する
	X-エレメントとバルブシートのゴミ付着、 または傷をチェック	X-エレメントとバルブシートの クリーニング、または交換
	ニードルバルブを引き上げていないかチェック	ニードルバルブを閉める
排出口以外から 蒸気が漏れる	ガスケットの劣化、損傷をチェック	ガスケット交換
	各部の締め付けトルクをチェック	適切なトルクで締め付け
	本体またはカバーにエロージョンが発生していない かチェック	製品の取り替え
フロートが破損 してしまう	ウォーターハンマーが発生していないかチェック	配管に不備がないか調査

※取り替えが必要な部品は、構造を参照して点検キット・補修キットなどで交換することを推奨します。
なお、点検キット・補修キットなどはユニット部品として発送されますのでご了承ください。

製品保証

本保証書に定める条件に従い、株式会社ティエルバイ（以下「TLV」といいます）は、TLV もしくは TLV グループ会社が販売する製品（以下「本製品」といいます）が、TLV が設計・製造したものであり、TLV が公表した仕様書（以下「仕様書」といいます）に適合しており、製造上の欠陥がないことを保証します。ただし、本保証書の内容が、本製品に関する保証の内容のすべてであり、明示または黙示を問わず、その他の保証などは一切行いません。

TLV は、当社とは関係のない第三者が製造した製品または部品（以下「部品」といいます）については、保証は行いません。

保証が適用されない場合

本保証書に定める条件は、次のような原因による欠陥や故障の場合には適用されません。

1. TLV、もしくは TLV グループ会社以外の者、または TLV が認定したサービス担当者以外による不適切な出荷、設置、使用、取り扱いなどの場合。
2. 汚れ、スケール、錆などが原因の場合。
3. TLV もしくは TLV グループ会社以外の者、または TLV が認定したサービス担当者以外による不適切な分解・組み立てが行われた場合。
または、適切な点検・整備が行われていない場合。
4. 自然災害、天災地変もしくは不可抗力による場合。
5. 間違った使用、通常の方法以外での使用、事故、その他 TLV、もしくは TLV グループ会社の支配が及ばないことを原因とする場合。
6. 不適切な保管、保守または修理による場合。
7. 取扱説明書の指示に従わないで、または業界で認められている慣行に従わない方法で製品を使用した場合。
8. 本製品が意図していない目的または方法で使用了場合。
9. 本製品を仕様範囲外で使用了場合。
10. 適用外流体^{※1}に本製品を使用了場合。
11. 本製品の取扱説明書に記載されている指示に従わなかった場合。

※1：蒸気、空気、水、窒素、二酸化炭素、不活性ガス（例えば、ヘリウム、ネオン、アルゴン、クリプトン、キセノン、ラドンなど）以外の流体

保証の期間

本製品の保証期間は、最初のエンドユーザーに納入されてから 1 年間、または TLV 出荷後 3 年間のいずれか早く到来する日まで有効です。

保証の範囲とその条件

上記保証の期間内に TLV、もしくは TLV グループ会社の責任により故障を生じた場合は、その製品の交換または修理のみを行います（それ以外の保証は行いません）。ただし、以下の書類の提出を条件とします。

- (a) 保証が適用されることが証明できる事項が記載されたもの。
- (b) 購入履歴が証明できる事項が記載されたもの。

なお、交換または修理の対象となる本製品の返送などに関する費用は、購入者またはエンドユーザーの負担とさせていただきます。

責任の限定

TLV、もしくは TLV グループ会社は、本製品または本保証内容に関連して被るいかなる種類の損失（購入者、エンドユーザーの損失を含むがこれらに限らない）※2について、TLV、もしくは TLV グループ会社、またはそれらの代表者もしくは担当者が当該損失の発生の可能性について知らされていたか、認識すべきであったかにかかわらず、いずれの責任の理論※3に基づく責任も負わないものとしします。

上記規定にかかわらず強行法規などの適用により、本製品または本保証内容に関連して、TLV、もしくは TLV グループ会社が負うことになる責任がある場合、その責任は、購入者が TLV、もしくは TLV グループ会社に実際に支払った本製品の代金額（ただし、製造上の欠陥が認められる本製品の代金額に限られ、製造上の欠陥が認められない本製品の部分は含まない）を上限とします。

※2：通常損害のほか、間接損害、付随的損害、特別損害、派生的損害、拡大損害、製造ラインの停止に伴う損害を含みますが、これらに限りません。

※3：契約、不法行為（過失を含みます）、その他の理由のいずれによるかを問いません。

保証の分離有効性

本保証内容のいずれかの項目が無効と判断された場合においても、その他の規定は影響を受けないものとしします。

アフターサービス網

アフターサービスのご用命は、最寄りの営業所、または下記のカスタマー・コミュニケーション・センター（CCC）をお願いします。

苫小牧営業所、仙台営業所、東京営業所（東京 CES センター）、静岡営業所、名古屋営業所、富山営業所、大阪営業所、加古川営業所、岡山営業所、広島営業所、福岡営業所



本社・工場 兵庫県加古川市野口町長砂881番地 〒675-8511

カスタマー・コミュニケーション・センター（CCC）

TEL (079)427-1800

FAX (079)422-2277

ホームページ <https://www.tlv.com>

TLV技術110番 (079)422-8833